

風評の払拭に向けた 経済産業省の取組について

令和7年4月

経済産業省 福島復興推進グループ

ALPS処理水に関するIAEA・経済産業省・東京電力の最近の情報発信

- **IAEA**は、ALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビューミッション報告書やALPS処理水の放射性核種分析における**分析機関間比較**、**追加的モニタリング**等について、**ウェブサイト**で情報発信。
- **経産省**では**Web広告**を活用した**情報発信**に加え、地元紙（岩手日報、河北新報、福島民報、福島民友、茨城新聞）において、**各県水産物の魅力**と**ALPS処理水のモニタリング結果**を伝える広告を掲載。
- **東京電力**においても、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**月1～2回の頻度**で**継続的に地元紙**（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に**広告を掲載**。

ウェブサイト(IAEA)



地元紙広告(経産省)

「常磐もの」が育む海のつながり

漁師の誇り。「旬の海」が育む極上の魚たち

「常磐もの」はプロも認める絶品のおいし!

ALPS処理水は、放出前に分析を行い、放射能検査を厳密に実施しているため、品質を確保でき、安心して食べることができます。また、放射性物質は放出前に除去され、環境に悪影響を及ぼすことはありません。また、放射性物質は放出前に除去され、環境に悪影響を及ぼすことはありません。

ALPS処理水の分析結果

東京電力及び第三者機関の独立した分析機関によるALPS処理水の分析を行い、放射性物質の濃度が安全基準以下であることを確認しています。

海域モニタリング結果

東京電力福島第一原子力発電所廃炉工程の一環として、福島県沖の海域に設置したモニタリング装置により、放射性物質の濃度を継続的に監視しています。

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

地元紙広告(東京電力)

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.44

2025年2月14日から、ALPS処理水の海洋放出によって空となったタンク(溶接型)の解体作業を開始しています。

タンク解体作業の手順について

1. 天蓋撤去
2. 側板撤去
3. 底版撤去

Q. 解体したタンクはどうなるの?

▶ 解体したタンク片はコンテナに収納し、福島第一原子力発電所構内の一時保管エリアで保管します。

Q. タンクを解体した後、空いた敷地は?

▶ 解体作業に必要な関連施設を新たに建設する予定です。

Q. タンク解体時の安全対策は?

▶ タンク解体に先立ち実施した事前調査では、JGエリアの全てのタンクの構造が十分に把握できていると確認しています。また、タンク解体作業中も、作業所にはモニタリング装置を追加して設置し、周辺環境へ影響を与えないよう、安全最優先で作業を進めています。

【参考】トリチウム濃度の比較

単位: ベクレル/リットル	世界の放射能汚染水(注1)	世界最悪汚染水(注2)	世界最悪汚染水(注3)
60,000			
10,000			
700			
350			
20			
0.043			

注1: 1979年、原子力発電所事故で発生した汚染水。注2: 1979年、原子力発電所事故で発生した汚染水。注3: 1979年、原子力発電所事故で発生した汚染水。

国内の販路拡大と三陸・常磐ものを始めとした水産物の魅力発信

- 「三陸・常磐もの」の魅力発信・消費拡大のために、1,200者を超える企業等が参加する「三陸・常磐ものネットワーク」を活かし、ネットワーク参加企業等による弁当や社食の購入等を通じた消費を喚起。これまでに4回、「三陸・常磐ウィークス」を開催し、合計約254万食の弁当や社食等を提供。
- 2025年3月から、「ごひいき！三陸・常磐キャンペーン」の一環でコンビニ・スーパー・外食チェーンと連携した「三陸常磐食べようフェア」を開催。各社が三陸・常磐ものを使用したオリジナル商品を発売して消費拡大を応援。

◆三陸・常磐ものネットワーク

10/1-11/4 三陸・常磐ウィークス（第4弾）
石破総理大臣や武藤経産大臣も食べて応援



◆ごひいき！三陸常磐キャンペーン

3/4～ セブンイレブン、ファミリーマート、ローソン、イトーヨーカドー、デニーズ、
魚屋路（ととやみち）との「三陸常磐食べようフェア」を開催



風評払拭に向けた取組①（事業者と連携した情報発信）

- 福島県の風評払拭や関係人口・交流人口の拡大に向け、被災12市町村を始めとした福島県の復興状況や魅力に関する情報発信などを実施。①行政による発信に閉じない民間主体の柔軟な発信の後方支援、②「質」の重視、③持続的な自走に繋がる取組を意識。

海外での福島県産品の販路拡大に向けた情報発信

- タイ・バンコクにて、タイ国内で日本食店などのフランチャイズを展開する大手グループの経営幹部、常連顧客へヒラメなどの常磐ものを使ったメニューの試食会を開催。参加者からは好評の声が上がった。
- アメリカ・オレゴン州ポートランドで開催された日本酒イベントに、南相馬市・浪江町で新ジャンルの酒「クラフトサケ」を造るブランド「haccoba」ブースを出展。日本酒の輸入・流通業者や、日本酒好きの顧客に、同社から商品が造られたストーリーなどを交えて説明し試飲を提供した。出展者のうち、最も参加者からの購入希望が集まった。現地紅茶ブランドとのコラボも決定。



▲参加者に提供された
ヒラメとホッキ貝の刺身



▲丁寧に調理された常磐ものの
メニューに舌鼓を打つ参加者



▲日本酒イベントのフライヤーに
おけるクラフトサケの紹介



▲日本酒に関心の高い参加者
に試飲を提供

風評払拭に向けた取組②（大阪・関西万博における復興庁と共同での情報発信）

- 2025年大阪・関西万博では、世界的にも未曾有の複合災害に直面した福島県浜通り地域等の現状や未来を紹介し、単に震災前に戻るのではなく、社会課題解決の先進地として再生を目指すストーリーを力強く発信し、共感の輪を国内外に広げ、風評払拭しつつ、共に復興を支え挑戦する交流人口・関係人口の一層の拡大を目指す。

福島復興展示の概要

【展示期間】

2025年5月20日（火）～5月24日（土）

【展示場所】

EXPOメッセ（約2,000㎡）

※「東日本大震災からのよりよい復興（Build Back Better）」をテーマに、復興庁と共同で展示を実施。

※復興庁は岩手県・宮城県・福島県を対象とした展示を開催予定。

【展示コンセプト】

FUKUSHIMA FUKKO – TRANSFORMATION : F-X



- 原子力災害被災12市町村（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村）に、いわき市、相馬市、新地町を加えた15市町村の事業者が出展予定。
- 福島県浜通り地域等で行われている挑戦や取組を「人」にフォーカスして発信。展示のほか、トークセッションやワークショップ等を実施。下記テーマに基づき、50を超える取組を紹介。

○あの日から ○イノベーション ○アクティビティ ○食 ○アート・コミュニティ ○未来の浜通り